



教員が研究の楽しさを語る

第236回(11/5)

田草川みずき先生推薦 **ブックガイド**



※掲載されている本はL棟2階 あかりんアワーのコーナーに配架されます。

Book1

義太夫節浄瑠璃未翻刻作品集

著者：義太夫節正本刊行会編

出版：玉川大学出版部 2006.5-

コメント：江戸時代に刊行された浄瑠璃本（人形浄瑠璃作品）は、千数百冊に達します。このうち、近松門左衛門の登場以前の作品（約五百点）はほぼすべてが翻刻（活字化）されましたが、その後は、近松作品を含む一部の有名作を除き、ほとんどが未翻刻のままでした。本集成は、こうした浄瑠璃未翻刻作品すべての活字化を目指し、定期的に刊行しているものです。紹介者もこの刊行会に参加し、未翻刻作品の活字化に邁進しています。

※千葉大学附属図書館では所蔵していません。

Book2

図説江戸の演劇書

著者：赤間亮著；早稲田大学坪内博士記念演劇博物館編

出版：八木書店, 2003.2

コメント：能狂言・浄瑠璃・歌舞伎等の古典演劇の周縁に生じた様々な資料を「演劇書」と呼びます。本書は、最も残存数が多いと思われる歌舞伎の資料、現代の映画で例えると、ポスター・チラシ・パンフレット・台本・写真集・映画雑誌等にあたる、様々な「演劇書」を取り上げ、その種類や性質、分類方法を図入りで解説しています。貴重な資料が散佚しがちな中、「永遠の生命が演劇資料に齎されることを願い」（はじめに）、著されたのが本書です。





Book3

文楽二十世紀後期の輝き：劇評と文楽考

著者：内山美樹子著

出版：早稲田大学出版部, 2010.2

コメント：著者の内山美樹子氏が、昭和40年（1965）から平成12年（2000）にかけて、新聞・雑誌等に発表した義太夫節人形浄瑠璃文楽の劇評集です。題名にある通り、二十世紀後期の文楽の歴史と問題点、そして舞台芸術としての輝きが余すところなく記されています。正しい伝承とは何か、そのために研究者・劇評家が出来ることは何かということを、常に見つめ続けた著者の、温かくも厳しいまなざしが感じられる、文楽愛好者必読の書です。

